

# 相談室だより 2013年2月号

みさき病院  
MSW 三宅浄継

生活困窮は自己責任！？  
生活保護の基準引き下げを皆さんはどう思われますか？  
妥当！？反対！？  
民医連では現状を知るために、  
「生活保護受給者の生活実態調査」  
を実施します。  
そこで、今回普段は、身近に感じない問題かもしれませんが、ケースを紹介しますので、一度考えてもらう機会となれば幸いです。



## ★(モデル世帯別生活扶助基準引き下げ 月額) 朝日新聞資料より作成

モデル世帯	現行	2015年以降	月削減額(削減率)
3人世帯(夫婦・子供1人)	約172,000円	約156,000円	16,000円(9.3%)
4人世帯(夫婦・子供2人)	約222,000円	約202,000円	20,000円(9.1%)
単身世帯(70代以上)	約77,000円	約74,000円	3,000円(3.9%)
2人世帯(70代以上夫婦)	約114,000円	約109,000円	6,000円(4.4%)
単身世帯(20~40歳)	約85,000円	約78,000円	7,000円(8.2%)
母子世帯(母親と子供1人)	約150,000円	約141,000円	8,000円(6.0%)

## ○「もう限界です」

Aさん(男性)は、土木関係の仕事に従事していました。しかし、脳出血発症により、片麻痺の後遺症が発生。会社は解雇され、収入が無くなり、貯蓄を切り崩しながらの生活を強いられることになりました。しかし、貯蓄も底を尽き、「もう限界です」と麻痺側に装具を付け杖歩行で相談室を訪れました。話を聞くと、年金も受給要件に満たないとのことで、これからの収入の見込みがありません。

Aさんと話し合い生活保護の申請に出向く事にしました。しかし、Aさんは移動手段として車を保有したいという意思があり、保有の状態では相談に行く、次から次へと質問責めと手放すように言われるなどで、Aさんは「我慢できない」「もう申請しない」と言われるように・・・。

私は、Aさんへ「今が頑張りどき」ですと伝え、申請書類を書きあげ、申請窓口へ再度一緒に同行し車の保有についても認めてもらうよう交渉しました。結果、保有のまま受給開始となり、ハッピーエンドになると思われましたが、その後、Aさん宅へ行くと、食費の切り詰めや車も病院受診のみの利用ということで、閉じこもり状態になっていました。「何の楽しみもないよ」「ただ生かされている」と悲観的な言葉が続きます。Aさんの表情や言葉から、生活保護基準額や様々な制限について改めて考えさせられました。

現状でも、生活保護受給者は支出を切り詰めた生活を強いられています。また、Aさんのように、病気により、会社より解雇されたケースが生活困窮に陥ったのは自己責任でしょうか？

私は、自己責任論は否定的です。身近なケースを通じて他人毎には思えない気持ちになっています。現にAさんのようなケースで私と同じ年齢の方の相談も受けています。何時自分達が当事者になるか解りません。社会保障改悪については、断固反対の姿勢でのぞみたいものです。